

3. 活動内容

1 平成 27 年度 ESD 指導計画

(1) 目 標

持続可能で発展的な社会をつくるための担い手の育成を目指し、地域社会の一員として身近な地域に貢献する人材を育成するとともに、国際社会の一員としてグローバルな視点に立って行動する人材を育成する。

(2) 基本方針

- ① 教師や生徒の主体性や創造性を大切にした、総合的で探求的な教育課程づくりによって、学校全体の全教育課程をとおして ESD を推進する。
- ② 「志教育」との関連を図りながら ESD を推進し、知・徳・体を生かして実践し、自己の夢や希望を実現するたくましい主体を育成する。
- ③ 教育課程では、特に 3 年間の関連を持たせた「総合的な学習の時間」での指導を ESD の中核として扱う。
- ④ ESD の指導について教員の研修を進めるとともに、指導の成果を評価する方法を工夫して指導に位置づける。
- ⑤ 地域において多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携できるよう、学校と地域社会のネットワークを構築する。

(3) 「総合的な学習の時間」での指導

① 目指す生徒の能力や態度

	総合で目指す能力や態度 (評価の観点)	ESD で重視する能力や態度	志教育の視点
①	問題や関係をとらえる能力 (思考力)	① 批判的に考える力 ③ 多面的, 総合的に考える力	もとめる
②	適切に表現してかかわる能力 (表現力)	④ コミュニケーションを行う力 ⑥ つながりを尊重する態度	かかわる
③	主体的に解決する態度 (課題解決)	② 未来像を予測して計画を立てる力 ⑦ 進んで参加する態度	はたす
④	自己の役割を果たして共に生きる態度 (生き方)	⑤ 他者と協力する態度	もとめる かかわる はたす

② 探求型の学習を進めるための方策

- ・ 学年ごとの学習テーマを「問い」の形で表して示し、生徒の課題解決を促す。(例: ○○するにはどうしたらよいか?)
- ・ 学年ごとに段階性を持たせ、3 年間で生き方の自覚を促せるように指導する。
- ・ 個人の探求活動と集団での体験学習を交差させて、個人の探求活動を刺激する。
(個人探求活動を進める過程で、集団での単元学習 (年間 2 つ) を経験させる)
- ・ 個人の探求活動では、書く活動を大切にし、学習のまとめには、個人ごとの学習ノート (ファイル), レポート, ポスター等を作成する。
- ・ 集団での体験学習では、創造したり, 社会参加したり, 実践したりすることを工夫する。
- ・ 集団での「話し合い」や「発表」の場면을工夫する。(文化祭での発表も工夫する)
- ・ 自発的な読書活動や情報収集活動を適宜取り入れて探求活動の参考にさ

- せる。
- ・ 唐桑地区の学習素材を活用する。
- (4) 「各教科」での指導

2 平成 27 年度に行った ESD に関する活動

(1) 主な活動

- ① 地域の素材や人材を活用するため、公民館や教育センター、諸団体との連携を図った。
- ② 学習活動の様子や成果等について積極的な情報発信を図り、他校や施設との連携を通して交流を図った。

(2) 学年ごとの活動

① 1 学年

1	「私たちは故郷とどのようにかかわり、生きていけばいいのか」 ～地域を調べる～ ・ 海拔表示活動（防災） ○ 事前準備 8 時間 ○ 現地調査学習・取り付け作業 1 2 時間（2 日間） ○ 事後学習 2 時間
2	「地域の郷土芸能を知る」～大漁唄い込み～ ○ 歴史を知る 2 時間 ○ 体験学習 4 時間 ○ 事後学習 2 時間
3	文化祭での発表に向けて ○ 「故郷」と「災害」「自然」についてのまとめ・準備 1 8 時間 ○ 発表・討論会 2 時間
4	その他 ・ 居住地交流学习（支援学校） ・ 「いじめ撲滅宣言」参加

② 2 学年

1	「人はなぜ働くのか」～職場体験学習へ向けて～ ○ 事前 7 時間 ○ 体験学習 1 2 時間（2 日間） ○ 事後学習 2 時間
2	「福祉と共生」 ～障がいのある人とどのようにかかわって生きていけばよいのか～ ・ 福祉施設「高松園訪問」 ○ 事前 5 時間 ○ 体験学習 4 時間 ○ 事後学習 7 時間
3	友達や家族を考える 「仲間とともに歩むために大切なことは何かを考える」 ○ 1 2 時間
4	エネルギーと環境 (講話：浅沼先生「エネルギーと環境・持続発展的な社会を目指して」) ○ 2 時間
5	文化祭での発表に向けて 8 時間
6	「いじめ撲滅宣言」～いじめをなくすための具体的な行動を考え、実践しよう。～ ○ 11 時間

